

「宇治茶生産の景観」の世界文化遺産登録 に向けた取組の推進について

【担当省庁】農林水産省

宇治茶生産の景観保全、情報発信及び人材育成に関する取組 の「美しい農村再生支援事業」等への採択

- ◆ 京都府では、茶園や集落の文化的景観と茶師・茶商の屋敷群を構成資産候補とする『日本茶のふるさと「宇治茶生産の景観」』の世界文化遺産登録に向けた取組を推進しており、景観に配慮した茶園の整備や歴史的価値のある茶工場の修繕に活用可能な「美しい農村再生支援事業」の予算を確保していただくとともに、京都府の事業を採択していただきたい。
- ◆ また、景観を保全するためには、生業を維持することが欠かせないことから、生産者の経営の安定を図るために非常に大きな効果を発揮している「果樹・茶支援関連対策事業」の予算を引き続き確保していただきたい。
- ◆ さらに、世界遺産登録を応援する府民の機運を盛り上げるため、宇治茶をテーマとした広域連携ネットワークを構築し、文化・歴史・魅力を学ぶ場の提供などを行うこととしており、「都市農村共生・対流総合対策交付金」（広域ネットワーク推進対策）の予算を確保していただくとともに、京都府の事業を採択していただきたい。
- ◆ あわせて、800年の伝統に培われた宇治茶の魅力の世界に向けて発信し、宇治茶の生業を支える革新的研究開発や次代を担う生産者や流通業者の後継者を育てる人材育成の拠点を京都府茶業研究所に整備することとしているため、「農山漁村活性化プロジェクト支援交付金」の予算を確保していただくとともに、京都府の事業を採択していただきたい。

<農林水産省の概算要求>

◎「美しい農村再生支援事業」 20.0億円（新規）

農村の有する景観や伝統等に着目し、それらの付加価値を再生・向上させる観点から、将来に残すべき棚田・棚池や水路・ため池等の保全・復元、継承に向けた整備を支援する。

◎「果樹・茶支援関連対策」 70.2億円

老朽茶園の改植や輸出用茶園における生産加工技術の導入、産地気象の実情に応じた生産体制の強化等に対し支援する。

- ◎「都市農村共生・対流総合対策交付金」 23.0億円
集落集合体が農山漁村の持つ豊かな自然や食を観光、教育等に活用し、地域外の人材受入や空き家等を活用する取組を支援する。
- ◎「農山漁村活性化プロジェクト支援交付金」 70.0億円
都市との地域間交流を促進し、農山漁村地域の活性化を図るため、地域の実情に合わせた活性化計画を作成し、その実現のために支援する。

現状・課題等

◎ 宇治茶の世界文化遺産登録に向けた取組

京都府では、「日本茶・宇治茶の世界文化遺産登録検討委員会」を設置し、関係団体や市町村と連携しながら、京都山城地域が育んできた茶畑や茶工場を含めた集落景観や茶間屋街を『日本茶のふるさと「宇治茶生産の景観」』として提案書を取りまとめ中

◎ 宇治茶の生産対策等への取組

京都府では、高齢化や茶価の低迷により、条件不利な茶園から荒廃化が懸念される中、改植、被覆棚施設などの生産条件整備、輸出相手国の残留農薬基準に適合する栽培実証を実施

◇収量、品質低下が懸念される樹齢 30 年以上の茶園が今後増加

樹齢別茶園面積 (単位: ha)			
20年以内	21～30年	30年以上	計
810.0 (49.8%)	510.9 (31.4%)	305.2 (18.8%)	1,626.1

被覆茶園面積 (単位: ha)	1,137.2
よしず・こも	31.3 (2.8%)

平成 24 年度京都府茶業統計

◎ 京都府茶業研究所

京都府の茶業研究所では、宇治茶に関する試験研究はもとより、大正 14 年以来京都府茶業界の次代を担う生産者や流通業者の後継者を研修生として受入、昨年までに 184 人が修了

現在、世界に誇る「宇治茶」の生業を支え維持発展させるため、茶業研究所を次の 3 つの要素を兼ね備えた拠点として整備するための構想を作成中。

- ・世界最高水準の品質を誇る「宇治茶」の新時代に向けたイノベーション創出
- ・「宇治茶」の栽培・加工・流通・消費の産業創出を担う幅広い人材育成
- ・800 年の伝統に培われた「宇治茶」の生産技術の継承と価値の発信

【京都府の担当部局】

農林水産部 農産課 075-414-4944
研究普及ブランド課 075-414-4968